

新駅位置検討調査委託結果（概要版）

○目的

市では、次期答申に向けて、新たなまちづくり構想策定の検討を進めています。今回の調査では、まちづくり構想エリアの中で、新駅の位置について比較・検討をすることで、まちづくりの検討をより具体化するというねらいがあります。

この調査は、新駅の位置をここで決めるというのではなく、複数箇所の検討を行い、今後のまちづくり構想策定に役立てていくものです。

○内容

まちづくり構想エリアの馬場地区は、地形的に高低差があり、高低差の高いエリア(坂上)、高低差の低いエリア(坂下)、関越自動車道寄りの3箇所において、高架案、地下案、地上案の3種類の構造について比較検証を行い、メリットデメリットの洗い出しを行いました。

○結果

位置検討	A案(坂下)	B案(坂上)	C案(関越自動車道寄り)
メリット	事業延長が3案の中で中間であるが、延伸ルート上に大きな支障物がなく、施工できるため、コストの面で優位となる。	市役所に最も近い案であり、平林寺などの観光地へのアクセスに優れ、駅利用者の増加が見込まれる。	住宅エリアを通過する範囲が少ないため、支障物件が少ない。 スマートインターのような事業と一体となった複合的なまちづくりを行うことができる。事業延長が最も短いため、コスト面で優位。
デメリット	住宅エリアを多く通過し、高架構造設置による日照及び騒音の問題が発生するため、導入空間の確保が懸念される。	事業延長が最も長いため、コストの面では最も劣る。急傾斜となる部分は、道路の建築限界(車両等が安全に通行できる空間)を確保するために高架構造物の柱の高さが必要なため、材料費が高くなる。	大規模な物流倉庫と干渉するため、用地買収費等が高額になることが想定される。 地下構造とした場合、駅の深度が最も深いため、地上からの上下移動が最も大きく、利便性に劣る(コストも上昇する。)
構造検討	高架案	地下案	地上案
メリット	高架下を利用したテナント誘致が可能となり、活気あるまちづくりに寄与する。地下案に比べてコスト面で優位となる。	鉄道構造物が地下区間に位置するため、地上に与える影響が少ない(まちづくりがしやすい。)	駅のホームが地上に位置するため、上下移動がなく、利便性が優れる。
デメリット	地上部に与える影響が大きい。鉄道構造物を境に地域分断や、日照等によるまちづくりへの影響が懸念される。	地下構造(駅部・シールドトンネル)は高架構造や地上案より事業費が高価となり、コスト面では他案に比べて劣る。	土工空間(路面上)において交差する道路がある場合は、踏切の設置または、車道の立体交差を行う必要がある。